

- ②④面 東京1区に看板・党首級次々投入
- ③面 地域に根ざす新宿の遊技場相合
- ⑤面 安全安心な街をめざす新宿の警備業連絡協
- ⑦面 中川雅治・環境大臣に聞く
- ⑧面 東京10区は落合地区編入で若狭氏苦戦

週刊

新宿新聞

THE SHINJUKU SHINBUN

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊63周年 電話3369-6195 FAX3369-0759 (昭和32年12月4日第3種郵便物認可)

10月18日 2017年(水曜日) (第2027号)

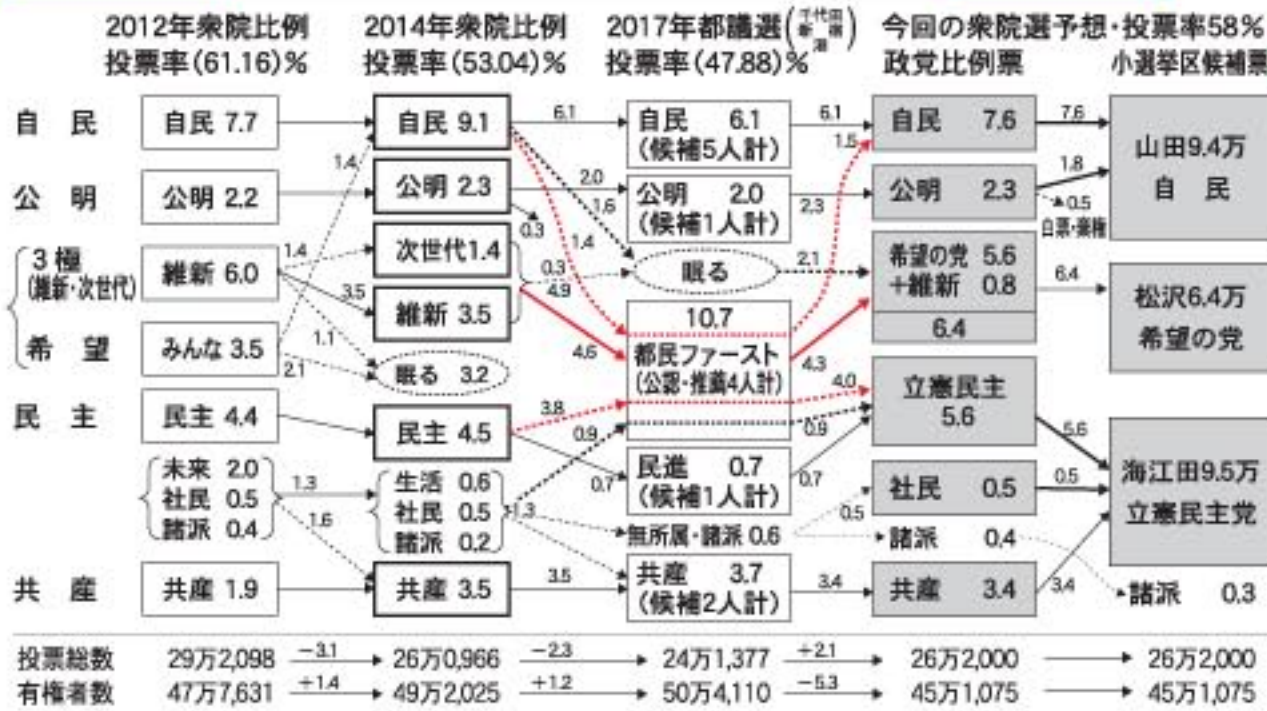
社章

発行所
株式会社新宿区新聞社
編集・発行人 藤田 勇
新宿区西新宿1-1-25
ワコーレ新宿第2ビル



東京1区の「票」の流れ

単位:万票



東京1区・立候補者

山田 美樹(43歳) 自由民主党・現職
海江田万里(68歳) 立憲民主党・元職
松沢 香(39歳) 希望の党・新人
原口 美季(28歳) 新人 又吉 光雄(73歳) 新人
犬丸 光加(57歳) 新人



海江田、枝野、長妻総いっ組みで新宿東南口には1000人の物衆



自民・山田の第一声には賛賞房長官も駆けつけた

海江田に一本田に投票したのは8万9千票。今回選挙では、このうち、前回比例で維新市民連合による立憲民主・共産・社民のへと流れることになる。一方、今年7月の都議選では、海江田の強い支持票を受けて、新宿・千代田・港3区の自民候補5人の合計は前回都議選より1万4千票減らし(都民ファーストへと流れた)、6万1千票という得と反対の基礎票になっていった。区自民合同集会(8日)をアルカディア市ヶ谷で、18日は自民党本部8階ホールで各団体総決起集会を行った。

「希望」6万票台で低迷

海江田に一本田に投票したのは8万9千票。今回選挙では、このうち、前回比例で維新市民連合による立憲民主・共産・社民のへと流れることになる。一方、今年7月の都議選では、海江田の強い支持票を受けて、新宿・千代田・港3区の自民候補5人の合計は前回都議選より1万4千票減らし(都民ファーストへと流れた)、6万1千票という得と反対の基礎票になっていった。区自民合同集会(8日)をアルカディア市ヶ谷で、18日は自民党本部8階ホールで各団体総決起集会を行った。

衆院選

東京1区・最終盤

海江田立憲を猛追する山田自民

熾烈／9万票台で大接戦

名門・東京1区(千代田・新宿・港)は自民・現職の山田美樹、立憲民主・元職で元立憲代表の海江田万里の2人が共に9万票台で熾烈な争いになっている。立憲民主の海江田は共産からの支援を得て政権批判票を取り込み、この激戦から頭一つ抜け出した。これを自民の山田が激しく追っている。希望の党の松沢は2人の争いからは遅れを取るが、無党派層の上積みで望みを託し追撃している。3極の三つ巴の戦いで有権者の関心は高まり、投票率は前回の53%から58%へ上昇しそうだ(敬称略)。

は新宿東南口で枝野代打きた保守革新の一騎打ちの構図から、小池議員が応援に駆け付ける「希望」の党が割り込み、三つ巴の対決となる。

前回14年衆院選で海江田に投票したのは8万9千票。今回選挙では、このうち、前回比例で維新市民連合による立憲民主・共産・社民のへと流れることになる。一方、今年7月の都議選では、海江田の強い支持票を受けて、新宿・千代田・港3区の自民候補5人の合計は前回都議選より1万4千票減らし(都民ファーストへと流れた)、6万1千票という得と反対の基礎票になっていった。区自民合同集会(8日)をアルカディア市ヶ谷で、18日は自民党本部8階ホールで各団体総決起集会を行った。



希望の党

小池知事で挽回めざすが希望・松沢は厳しい情勢
の何と44%にあたる。今回衆院選での希望の党は、先の都議選で膨らんだ10万7千票のうち、自民に1万5千票が流出、海江田にも4万9千票が流出し、4万3千票に

秒読み

政治に「変化」を求める人は浪山いたはずだ。その「変化」をもちたらず人として期待されたのが、希望の党の小池代表だった。だが、都民ファーストの威力は既にたく、改革パワーはすでに色褪せていた。原因の一つは民進党左派を、排除の論理で切り捨てたこと。その手法が失望を生んだ。もう一つは選挙公約で、具体策を示し得なかったことだ。例えば消費税に代わる財源は、どこから持ってくるのか? 30年に原発ゼロにする工程表も、原発に代わる代替エネルギー確保の具体策も出せないでいる。▼スローガンに掲げるだけなら、何でも言える。安倍一強の打破と「変化」を訴えても、森友・加計問題で「しがらみ政治、お友だち内閣」と、レッテル張りの「口先」批判だけで終わってしまった。これは反対だ。一時は「変化」を求め、声を上げてみたが、再び、政治の安定を求めて、一国民衆・回帰」をする世論の姿が今は透けて見える。▼「変化」への期待が萎めば、安定志向を求めたがるのは世の常だ。では、期待した「変化」とは何だったのか? それを我々自身も掴めないでいる。「変化」の中心が見えない中で、立ち止まったままの「小池新党」に、「希望」はあるのか?